

# 1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2971000258		
法人名	社会福祉法人 蒼隆会		
事業所名	グループホーム すばる		
所在地	奈良県香芝市鎌田157-1		
自己評価作成日	平成27年6月3日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaiqokensaku.ip/29/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2971000258-00&amp;PrefCd=29&amp;Ve">kaiqokensaku.ip/29/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2971000258-00&amp;PrefCd=29&amp;Ve</a>
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット		
所在地	奈良市登大路町36番地 大和ビル3階		
訪問調査日	平成27年6月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちのグループホームは、同じ敷地に特別養護老人ホーム、短期入所生活介護、通所介護、訪問介護、居宅介護支援センターを併設しております。グループホームは1階建てであり、天気の良い日は利用者が散歩に出掛けられたり、畑や花壇を見に行かれます。畑は初めは素人であった職員が始めましたが、今では色々な野菜に挑戦し、収穫できる野菜も増えました。ご利用者も草引きや収穫の際にはお手伝いもして下さいます。収穫された野菜は週2回行っているお料理日に使用し、ご利用者皆さんと職員で、協力して食事を作っています。日々のスケジュールはありませんが、皆さんが孤独にならないよう、リビングで職員とゆったり過ごしたり、お部屋におられる時もこまめに訪室するように心掛けています。職員はもちろん、ご利用者も笑顔で毎日過ごせるよう、支援させていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は駅から少し離れた、まだ田園風景の残る静かな住宅地の一角にあり、広い敷地に特別養護老人ホーム、短期入所生活介護、通所介護、訪問介護、居宅介護支援センターに併設されている。地域では先駆的な事業所であり、行政と協力して地域福祉に貢献している。施設内は天窓から注ぐ日差しで明るく、広いリビングに利用者が集い、ゆったりと生活している。管理者はおおらかで、経験豊かな介護に対する熱意ふれる職員と共に、利用者の立場に立ったサービスを展開している。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

セル内の改行は、(Alt+Enter)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念は共有し、理念に沿った日々のケアに反映されていると感じていますが、グループホーム内の小さな目標などは、作成出来ていません。	「利用者の立場に立ったサービスの提供。能力に応じた豊かな日常生活の提供。地域、家庭、関連機関と連携した総合的なサービス提供」の運営理念を玄関に掲げ、職員は入職時や会議で説明を受け周知している。日常の支援で実践されている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ご利用者と職員とで外出や外食、買い物に出掛けるように心掛けています。毎週訪問販売と同じ方が来てくださるので、なじみの関係も出来つつあります。	自治会には加入はしていないが、法人は地域の災害時の避難場所に指定されている。地域行事に参加したり、地元の園児や児童の定期的な慰問を受けたり、中学生の職業体験を実施するなど、地域との交流が行われている。訪問販売や敷地内のデイサービスへの参加も楽しみにしている。	地域交流の地盤はできているので、自治会への加入の機会を待つのではなく、利用者がより地域とつながりながら暮らせるように、こちらからの積極的な働きかけを期待する。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだまだ地域貢献は出来ていません。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度開催しています。参加者にはご利用者のことやホーム内でのこと、現状報告を含め、1時間ほど話し合いをしています。その報告はグループホームの定例会議でも報告しています。	家族、市担当者、地域包括支援センター職員、民生委員、第三者委員などの参加を得て、運営推進会議が2か月毎に開催されている。利用状況や行事の報告などがされ、出席者の意見交換がされている。家族には前もって案内状を送付し、職員には定例会議で運営推進会議の内容を報告している。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者には、運営推進会議や香芝市内のグループホーム連絡会でお会いすることが出来、すばるの現状を含めた報告を行うようにしています。	行政とは協力関係が構築されており、介護保険制度の説明や感染症に対する指導、事故報告、入居者の受け入れなど密に話し合いがされている。法人として秋の市を挙げてのフェスタ、災害時の避難場所の指定など全面協力している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今までも身体拘束は行っておらず、これからも今までと同じような身体拘束を行わないケアを実践していきたいと思えます。	玄関、居間、居室など自由に出入りができ、大きなガラス戸で解放感がある。外出願望のある方には職員が付いて出るように配慮し、「お帰り」と迎えている。何度も話しかける利用者にも、作業をしながら、根気よくやさしく対応するなど、職員は不拘束に対する共通認識を持っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で、冊子を用いて高齢者虐待に関すること、虐待の種類等を学ぶようにしました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	まだ活用できていません。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、施設見学や説明をさせていただきようお願いし、事前に契約書等の書類をお持ち帰りいただいています。また契約を交わす時には、不明なことはないか、伺うように心掛けています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議にお越しいただいた折には、意見や意向を伺うようにしています。	利用者の要望は日々の生活のなかで汲みとり、家族の意見は面会時や電話連絡の際や運営推進会議で聞いている。手伝いがしんどい、薬の内容が知りたいなど出された要望や意見には迅速に対応している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や普段の勤務時間に個人に提案等がないか、伺うようにしています。職員との面談をしていきたいとは考えています。	管理者は日々の勤務の中で職員が意見を言いやすいように配慮している。月1回の職員会議では個別ケアについてや気付きなど活発な意見交換がなされている。職員の提案で勤務帯の時間をずらし、上手くいった事例がある。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	もっと努力が必要だと思います。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修・施設内研修の機会がまだ持てていません。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	香芝市内のグループホームの管理者と香芝市の地域包括支援センターの職員とが集まる連絡会が2か月に1回開催されるようになり、交流や意見交換の場は出来ました。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の様子はご家族様やご本人に関わる方(ケアマネージャーなど)から情報を伺うようにしつつ、ご本人との関わりを多く持ちつつ、意向を伺いようにしています。			
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からの話を聞きながら、意向などを引き出していけるよう気を付けています。			
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所までにご家族様、関わっておられた専門職の方と何度か話し合いを行うようにしています。			
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「ご利用者を職員、ご家族様がみんなで支える」ことを職員には話をしています。			
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者やご家族様と様々な話ができる関係の構築を目指し、面会時にはお声を掛けさせていただくように心掛けています。			
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お知り合いの方や地域の方がグループホームに入りやすい雰囲気であることを目指しています。買い物や外出も行き慣れている場所を選ぶようにしています。	利用開始前の状況をケアマネージャーからの情報や面談、家庭訪問により把握し、身体状況の他に利用者の普段の生活に重点を置いたフェイスシートを作成している。法人内のデイサービスとは日常的に交流し、墓参り、帰宅、自宅に宿泊されるなど家族の協力も得て、継続の支援に努めている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	少し職員がお手伝いをすることで、ご利用者同士で力を合わせて、台所での家事作業や洗濯物の片づけなど、行っていただいています。			
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	不十分であるとは思いますが、他の施設にご入居されたご利用者の訪問させていただいたことがあります。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者1人1人の思いや希望・意向は、ご本人・ご家族様から伺うようにしています。	日々の支援のなかで意向を汲み取り、申し送りノートに勤務帯別に色分けして記録している。個々の利用者担当職員は決まっているが、話し合いで情報を共有し、個別支援に活かしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にはご家族様、ケアマネージャーより情報の共有をお願いしています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者1人1人の変化や言動には注意し、記録に残すように心掛けています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	不十分ではありますが、作成しています。	フェイスシートやグループホーム日誌、職員意見を参考に介護計画書を作成している。1か月毎にモニタリングを行い、職員で話し合い、課題を明確にして見直しが行われている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録ファイルや職員間の申し送りノートなどでの情報共有を行っています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者への関わりは初めから「出来ない」と決めつけず、「どうすれば出来るようになるか」と考え、試行錯誤しています。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用は、病院受診の際の介護タクシーの利用や、外食の際のバスの利用程度です。	
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医に継続して受診されている場合もありますが、ホームに慣れて来られると法人の委託医に変更されることが多くなりました。	2週に1度、協力医の往診がある。これまでのかかりつけ医に通院される方が2名おられ、家族の同行が困難な時は職員が同行している。面会時に受診結果の報告をしている。
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の利用はしていませんが、幸い同法人の特別養護老人ホームに看護師がおりますので、緊急時には連携させていただいています。	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は、ホームに入所中・入院前の様子をサマリー等で伝え、入院中にはこまめな訪問を行っています。	
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアは行っていません。	終末期には併設の特養や病院に移られ、終末期ケアは行われていない。  終末期をどこで、どう過ごすかは、利用者、家族にとって重要なことだと思われる。利用開始時の利用者本人と家族の意向を聴き、それを参考にし事業所の今後の対応について、医療など関係者と話し合われることを希望する。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故発生時などの訓練は不十分だと思います。	
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制は不十分であります。	スプリンクラー、緊急通報装置を完備し、防災マニュアルがある。法人が行う年2回の避難訓練に参加し、事業所独自の訓練も行っている。居室の掃き出し窓からは段差なく外に出られるようになっている。法人は行政と災害時に要介護者の被災者を受け入れる契約をしている。非常時の飲料水や非常食の備蓄もある。

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の理念にあるように、ご利用者の人格を尊重し、ご利用者に合ったケアが出来るように心掛けています。	居室への入室時は「入りますよ」と確実に知らせ、トイレ誘導は自室にトイレが設置されているので、耳元でささやいたり代用語で知らせたりして、プライドを傷つけない配慮をしている。書類はファイルを色分けし重要なものは法人の事務所に、他のものは事業所に保管している。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者に本人の思いや意向を伺うようにしています。	
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者のペースに合わせ、身体の負担の無いよう、その日の暮らしを決めています。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者個人の衣類を自身で選び、着替えをされています。ご利用者の中には自身で選べない方、季節や気温に応じた衣類の選択が難しい方もおられる為、職員がお手伝いさせていただいています。	
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者と職員が、一緒に行っています。	主菜は法人の厨房で、ご飯と味噌汁は事業所で作っている。週2回の料理日には食材の買い出しから調理、後片付けまで利用者と一緒にいき、職員も共に食事を楽しんでいる。新年会、クリスマスには、寿司バイキングを楽しんだり、食事形態まで対応してもらえるレストランに外食に出かけることもある。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量・食事が少ない方は、毎日の食事や水分量をチェックしています。また、飲みにくい、食べにくいご利用者には、その方に応じた、形に変更するようにしています。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施しています。義歯は毎日、洗浄剤に付けるようにしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者に応じた間隔で、トイレへの誘導、見守りを行っています。	グループホーム日誌の排泄記録から利用者個々のパターンを把握し、適切なトイレ誘導を心掛けている。昼間オムツ使用者はなく、トイレに「排便を知らせてください」の張り紙があった。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼らず、自然なお通じが出るように、オリゴ糖や食物繊維、乳製品を積極的に摂るようにし、水分を多く飲用していただくようにしています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日には、朝からお風呂を沸かしているのがご利用者の希望を伺いつつ、不公平のないように順番に入浴していただいています。	毎日朝から風呂を沸かしており、週3～4回希望に添って入浴している。週2回特養で入浴される方がいる。入浴剤やゆず湯など変化をつけ、職員と会話しながら入浴を楽しんでいる。	「毎日お風呂を沸かしているのは、少々無駄なのでは？ 日数を制限して浮いた経費を他に回すのもひとつの工夫点ではないでしょうか。」と考えをめぐらせました。
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後から就寝までは、個人のペースでゆったりと過ごされています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の管理から投薬、服薬確認まで、職員が行っています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の状態に応じた、役割や楽しみを見つけ、お願いするようにしています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1階建てであり、各お部屋から外に行かれることも可能です。ただ、散歩の際は、転倒などの危険予防のため、付き添わせていただいています。	広い敷地内や事業所前のお花畑、菜園を散歩している。特養の喫茶コーナーに出かけたり、ボランティアのイベントにも参加している。食材の買い出しや外食、観劇、花見などにも出かけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1人のご利用者以外は、お金を持たれていません。事務所で管理を行っています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りは自由です。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者と職員が協力して作り上げた壁面やカレンダーを貼る、花壇の花を飾る、作品を飾る、など行っています。	大きな掃き出し窓のある食堂と居間は広く、天窓が大きく取られ、吹き抜け部分にうさぎが飼われている。居間を囲む壁には共同作品やペットの写真、大衆演劇のポスターなどが張られている。適度に配置されたソファで利用者がゆっくりと食後の時間を過ごされていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置く、食卓から全体を見回せつつ、ゆっくりしていただけるように気を付けています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には、新しいものではなく、今まで使われていた品々をお持ちいただくようにしています。	クローゼット、トイレ、洗面台が設置された居室は広く、掃き出しのガラス戸になっており自由に外にでられ、障子が入っているので落ち着いた感じがする。ベッド、タンス、鏡台、テレビなどが持ち込まれ、絨毯やござをひいた部屋、ベッドマットを直に床に置いた部屋など好みの部屋作りがされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者が安全に、少しのお手伝いをするだけで、継続してグループホームで過ごしていただけるよう、日々のご利用者の状態の把握に努めています。		